

科目名	一級建築構造				
担当教員	木原 隆明		実務授業の有無	有	
対象学科	一級建築士専攻科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	演習	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	建築士試験は耐震偽装問題を境に益々難易度が高くなり、非常に取得しにくい資格となっている。中でも建築構造は、構造力学という数学を使用する分野も含んでおり、苦手意識を持つ生徒も少なくない。過去問題を中心に授業を進め、かつ、補講を活用することで構造に対する苦手意識を取り除きたい。				
学習目標 (到達目標)	一級建築士学科試験「建築構造」において、25点(30点中)以上の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1級建築士講座テキスト(総合資格学院) 1級建築士問題集(総合資格学院)				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	力とつり合い 静定構造物			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
2	断面の性質と応用力 部材の変形			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
3	不静定構造物			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
4	座屈			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
5	振動			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
6	骨組の塑性解析			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
7	構造設計の基礎			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
8	構造計画			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
9	鉄骨構造			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
10	鉄筋コンクリート構造			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点 20 %	課題 %	模擬試験 60 %	小テスト 20 %	構造は力学、各種構造、材料学に分離されるが各種構造で点数がどれだけとれるかがポイントとなる。内容的に施工と重複する部分が多いため施工と合わせた勉強法を習得してほしい。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	現場設計・施工管理業務経歴48年				